

TAKE
FREE

Period for 探究 PRESS Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study

vol.4
2022

答えのない問いに立ち向かう、湖東高校探究プロジェクトチームが発行する新聞

FEAUTURE 特集

活動の半年を振り返る

生徒会誌「ちしお」に生徒の活動報告が掲載されました。以下はその内容です。

探究プロジェクト

私たちは一年次から有志の生徒を募り、探究プロジェクトとして、フェアトレードやジェンダーのこと、子供支援の活動に取り組んできました。私は現在、フェアトレードのことについて自分たちでアイデアを出しながら多くの人にフェアトレードのことについて知ってもらえるよう活動しています。フェアトレードコーヒーの専門店を運営し、浜松のフェアトレード活動に貢献なさっている豆乃木の杉山さんと協力して、私たちとのコラボ商品の開発を計画中です。杉山さんは一年次のときにインタビューをさせていただき、今年度には学生時代の話や今の活動に携わるようになった経緯をきかせていただき、私たちの活動を後押ししていただいています。

実は浜松市がフェアトレードタウンになったきっかけは市長の「浜松には外国籍の人が多く、彼らには日々支えてもらっているから今度は私たちの番です。」という言葉にあるそうです。差別や違いに苦しむ人々が少しでも過ごしやすいよう、様々な人に優しい多様性のある社会を実現できるよう、これ

からも活動に力を入れていきたいと思っています。そして、私たちの活動に興味のある方は、ぜひ一緒に活動をしましょう。

(Y.N)

フェアトレード

私はフェアトレードの活動を通じていろいろなことを学びました。特に心に残っているのはフェアではない貿易により苦しんでいる人がたくさんいるということです。そもそもフェアトレードとは直訳すると、公正な貿易です。簡単に説明すると、発展途上国においてフェアなトレードをすることにより、途上国の人々の生活を助けるしくみのことです。しかし現状はフェアな貿易が行われていません。私はこの活動を通じて労働に見合った給料がもらえず苦しんでいる人々の存在を知りました。そしてこのような状況をいろいろな人知ってほしいと思いました。私はフェアトレードが行われず苦しんでいる人々がいると知った時からフェアトレード商品を買うようになりました。みなさんがいつも買っているコーヒーやチョコレートはフェアトレードされた商品ですか。小さなことのように思えるかもしれませんが私たちがフェアトレード商品を買うことにより発展途上国の子どもたちは学校に行くためのお金を得ることができます。よかったらフェアトレード商品を買ってみてください。そして今、

あたり前に良い環境で学習できていることがとても幸せなことだと気づいてください。

(M.K)

私はフェアトレードに関するボランティア活動を通し、気付いたことがあります。それは、フェアトレードによって生活が変わる人はとても多いということです。正しく支払われた給与によって満足できる食事や子供への教育を手に入れた人々は、以前より遥かに幸せで健康的な生活を送ることができます。これはフェアトレードの公式な動画や資料を読むまでぼんやりとしか認識できていませんでした。また講師として本校に来ていただいた杉山さんの話でも適正な価格で取引されたコーヒー豆は少し値段が他より高くても買いに来る人がいるということを知りました。買い手にも利があるということだと私は感じます。お互いに利のあるフェアトレードはもっと広まるべきだと改めて思いました。

杉山さんの経営する、豆乃木に行かせていただき、実際にコーヒーを焙煎して自分で飲んだ時、とても美味しかったのを覚えていません。きっと買い手の方々もそう思って購入しているのではないのでしょうか。売り手や買い手、それぞれがよりよい暮らしを得るためにフェアトレードがあるのです。

(H.K)

プロジェクトFのフェアトレード活動では講師の方をお招きして講座を聞いたり、豆乃木さんへ研修へ行ったりしました。講座では「フェアトレードとは何か」「私達には何ができるのか」などを知れただけでなく、豆乃木さんの実体験からよりリアルな現状を知ることができました。特に「自分が助けている気になっていた」という言葉には重みを感じました。その点を踏まえた上で同じ活動をしているメンバーと何ができるかを模索していきたいです。豆乃木さんの研修は担当別に班を作って行いました。その中で私は開発班に所属しており、今回はパッケージ製作や売り出すコーヒーの種類について話し合いました。まだ方向性の基盤ができた程度ではあるため、次回は具体的に内容を詰めていきたいです。フェアトレード活動班は現在、コーヒー販売や宣伝に向けて話し合いを進めています。フェアトレードをより多くの人に知っていただけるよう努力していきますので、これからを乞うご期待してください。最後にこの活動は多くの人が行うことで効果を持ちます。ですから興味を持った方はフェアトレード商品を手にとってみてください。

(M,N)

「フェアトレード」。社会問題に関心があったりコーヒーが好きな人なら聞いたことのある言葉だと思います。ちなみに私は自分で豆を注文してドリップするくらいコーヒーが好きですが知らなかったです。それはさておき、私はLGBT問題と並行してフェアトレード問題にも関わってきました。

さて、ここで一つ例を出しましょう。フェアトレード商品で3000円のフルーツとフェアトレードではない2000円のフルーツがあったらどちらを買いますか？普通、安い方を買いますよね。そこが問題でフェアトレード商品は少し高いんです。だからたくさん売れなくなります。すると適切な取引ができなくなり、現地の人は苦しい生活をせざるを得なくなります。でも所詮他人だから知ったことかと思うかもしれませんが、でもフェアトレード商品を買うメリットがあるのです。それは食べ物の質が上がってより美味しくなり、現地に経済的自立が生まれるということです。しかし、それだけの理由じゃ買わない人もでて来るとおもいます。

もしそう思ったなら、是非「見て」ほしいです。フェアトレードの現状を。可視化されるのとされないのとでは大きく違います。そして3000円のフルーツを選んでくれる人が少しでも増えてほしいですね。

(K,H)

ジェンダー

私がLGBT問題に触れてきて、多少なりとも考えなければいけない部分があると思いました。もし周りにLGBTの子がいたらどうしますか？今は多様性の時代ですから、差別してやろうとかマイナスのことをイメージする人は多分あまりないかと思います。だけど”特別扱い”してませんか？。LGBTの子はみんなと違うから、接し方を変えないといけないかも、、、って思った人結構いるのではないのでしょうか？その考えを否定するつも

りはありません。ていうか私自身もそう思っていましたからね。でも実際、LGBTの方との話を聞くと「理解はしてほしいけど他の人と同じように接してほしい」という風に考えるようになりました。一人一人性格が違うように、一人一人意識や性の対象が違うなんてこともあるんです。だからそれを「個性」として認識すべきなのかなと思います。しかし現状は、男性同士、女性同士の結婚は認められていません。(パートナーシップという取り組みはありますが。)それにまだLGBTの理解をしておらず差別や偏見を持っている人も大勢います。でもこれから日本を作っていくのは私たちです。だから私たちがしっかりと理解していけば、そういった偏見や差別も減っていくかもしれません。この文章がそのきっかけに少しでも役に立ってくれたらうれしいです。

(K,H)

私がこの活動を始めたのは、一年生のころの総合の授業で行ったソーシャルチェンジがきっかけです。ソーシャルチェンジは「困っている人を助ける」というテーマで、探究していくプログラムでした。私はLGBTの人たちが差別に困っていることに気になっており、活動のテーマとしました。私は中学生のころ、同級生の友人と手を繋いだり、抱き合ったりしていたら周りから「レズ」とからかわれたことが気になって、調べたことがありました。そんな中で、LGBTや、私以上に悩んでいる人たちがいることを知りました。そして何かできることがあれば、このような人の役に立ちたいと考えるように

なりました。私は、この活動を通してたくさんを学びました。人それぞれの個性だから否定してはいけない、社会の差別・偏見をなくするのは難しいということです。私の周りは、差別する人もいれば、LGBTを知らない人もいました。湖東高校の中にも、何人かの人は知らないと思います。活動を通して私は、多くの人に困っている人達がいることを伝えたいと思っています。

(K.I)

私にとって性問題はとても身近なもので先生がLGBTについてのプロジェクトをやっていると聞いて、参加したのが始まりでした。プロジェクトを行っていくにつれて、いろいろな人達の講話を聞いていくうちに、LGBTで悩んでいる人々は沢山いて、そのことを隠しながら生活している人が私が思っている以上に多いことに驚きました。でも浜松では、パートナーシップ制度が作られていて、誰もが住みやすい町になりました。でもこの制度は浜松にしかなく、他の県や国にはまだないので、この制度が世界にできれば、また一つ幸せで自由な世界への第一歩だと思います。だから、もっとこの活動を自分とLGBTで悩んでいる人々のために、深く学び、それを正しく友達や家族に伝えたいと思います。そのためには、いろいろな人達の話や体験したことについて聴きたいと思っています。これから活動も頑張ります。

(A.A)

みなさんは、「LGBT」という単語を見て何のことを指しているのかわかりますか？おそらくわからない人が多いと思います。「LGBT」とは、レズ、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字を取ったものです。なぜ私が「LGBT」に興味を持ったのかと言うと、SNS上での友達が「どうして制服はズボンとスカートの好きな方が選べないんだろう。」と、言っていたことです。今までの考え方で言うなら「女子はスカート、男子はズボン」という世の中でしたが最近は女子でもズボンを好む人が増えてきている中で多数派の人の意見を尊重するだけではなく少数派の人の意見を取り入れる必要があるのではないだろうかとは私と考えました。しかし、現地点で改善されているとは言えません。だから、私たちは取り組んでいく中で大人の意見を変える前に学生にこういう考え方を広めていきたいと思っています。そして、今悩んでいる人たちのことを受け入れていける社会になってほしいなと思っています。

(R.I)

コトバシヨ(子ども学習支援)

みなさんは日本でも貧困が起きていることを知っていますか？僕は夏休みに浜松市社会福祉協議会の人を招いて日本の「見えない貧困」の現状について話を聞きました。僕が聞いて驚いたのは日本の子供の7人に1人が貧困という事実です。このような現状を少しでも変えるために社会福祉協議会では子供の学習支援という活動を運営しています。僕は実際学習支援とはどういった活動をしているのか学

習支援活動を行っている会場に実際足を運びました。会場の雰囲気は生徒さんとボランティアさんの信頼関係ができていからなのでしようかととてもなごやかでした。僕もボランティアの一員として今でも学習支援事業に参加させていただいてます。「貧困の連鎖」を止めるには僕たちに何ができるだろうか？と思索した結果、湖東高校初の学習サポート事業「コトバシヨ」を運営しようという考えにいたったのです。実際、一から作り上げていくのはものすごい苦労がありました。自分自身ボランティア側の人間だったので運営するための知識はありませんでした。そんな時に助けてくれたのは社会福祉協議会の方々でした。湖東高校初の学習サポート事業「コトバシヨ」を広げるために、そして、長く続くように、コトバシヨメンバーと共にアイデアを出し合っています。良いアイデアがあったら、おまちしています。

(D.W)

コトバシヨは子供たちの学習支援を中心とし、湖東高生が寄り添って勉強を教える学習サポート事業です。私は心理学に興味があり、将来は人と接する仕事がしたいと思っています。人と接するにはコミュニケーションが基本となります。このコトバシヨを通じて人と関わることの楽しさをより身近に感じたいと思いこのボランティアに参加しました。実際、今まで関わったことのない人と話す機会も増え、話し合いや現地での活動を通して自分自身の成長を感じることができました。それと同時に自分の弱い所、足りない所、課

題などを見つけることもできました。ボランティアは誰かのためになるだけでなく自身の成長の場でもあるということが分かりました。

今後、コトバショは対象となる学校を増やし、さらに活気のある活動となることが期待されます。コトバショで自分の力を最大限に生かすためにも、仲間と協力し、日々努力を怠らず精進していきたいです。

(S.Y)

僕が活動しているコトバショでは、湖東高生が中学生一人一人に寄り添ってニーズに答えられるように日々努力しています。僕は中学生だった頃、塾にかよふことができなくて高校受験への不安がありました。だから塾は学力を上げるためのだけの場所ではなく、生徒の受験への不安を安らげるための場所なのではないかと思いました。元々誰かに勉強を教えるのは上手ではありませんでした。しかし「誰かの役に立てるのであるならば」という思いでコトバショに参加しました。実際、教えてみると分からない事、難しいこともたくさんありましたが、その都度一緒に考えて解決していく楽しさを知ることができました。今後、どんどん中学生が増えてくると思うのでどんな状況になっても対応できるようにしたいです。中学生に直接教える人だけでなく、直接関わることのない運営側もしっかりと整えて、その時できる最大限のことを中学生にしてあげられるようにがんばっていきたいと思います。

(Y.A)

私はボランティア活動や奉仕活動は他人のためだけでなく自分のために行うものだと思います。私は中学生のときもボランティア活動をしていました。そのときは受験の調査書に書ければいいと思い参加したのですが、その体験から多くのことを学ぶことができました。そして現在、学業支援ボランティアに参加していますが、この活動を通して自分が少しでも成長できればなと思っています。

(K.S)

コトバショでは、中学生に勉強を教えることを通して、一人一人と交流しています。勉強でわからないところだけでなく、学校生活での悩みやその子がどのような人物なのかということも話すようにしています。他にも、コトバショを広めるために動画を制作したり中学校に行き、放送で話したりもしています。わたしはコトバショの活動に参加してみて一人一人が自ら考えて、行動することの大切さがわかりました。コトバショの活動中、みんなが今の状況を判断して、何をしたら良いかを考えて動いているなと感じました。わたしは自分から考えて動くことが苦手なのですが、そんなみんなの様子を見て、自分をやらないといけないうちが多かったと思います。コトバショは、中学生の成長を手助けするだけでなく、自分を大きく成長させてくれる活動だとわかりました。実際に中学生に勉強を教えてみて、とても楽しかったです。中学生のわからないことがわかって、嬉しそうにしてくれた顔を見れたときは、わたしも嬉しくなりまし

た。自分の復習にもなって良かったです。

(S.K)

私はコトバショというボランティアに参加しています。コトバショとは、簡単に言えば高校生が中学生に勉強を分かりやすく教えるというボランティアです。中学生は教えてもらいたい教科の教材を自分で持参してもらいます。教える側の私達は、その教材を元に、分からないを無くしてあげます。私がこのボランティアに参加した理由は、中学生に教えることで、私自身も中学生の頃の勉強を思い出し、今後に生かそうと思ったからです。他にも、私自身の成長にも繋がると思ったからです。

(K.O)

コトバショというボランティアがあるということを知ってボランティアをやってみたいという好奇心から参加しました。まずコトバショとは簡潔に書くと高校生が中学生に分かりやすく教え、勉強をより理解してもらうためのボランティア活動です。中学生が行き詰まって分からない教科を一对一で教えるので中学生の理解が深まります。そして教える側である高校生は複数いるため尋ねたい教科に合った人が教えるので分からないところがそのままになりにくい、という利点があります。僕はこの活動を機に中学生達の苦手を共に無くしていければと思っています。そのためにも自分が分かってなければ意味が無いので、復習し少しでも分かりやすい説明ができるよう努力していこうと思います。

(H.A)